

【社会科・小4 ごみのゆくえ（人々の健康な生活を支える事業）】①

本時のねらい

地域住民が様々な立場からごみを減らすための取り組みをしていることについて話し合うことを通して、ごみ処理には地域住民としての責任をもち、互いに協力していくことが大切なことを理解する。

ICT活用のポイント

- 一人一人が家庭学習において調査した身の回りで行われているごみ処理の取り組みについて、グループ（4人組）で**ホワイトボード機能を用いて整理・分類**する。
- 一人一人が表現した「振り返り」を、ICTの即時性を生かして、**全員で共有**する。

事例の概要（本時の学習）

【つかむ】

これまでの学習や学習を通して明らかになったごみ処理に関する問題点から、本時のめあてをつかむ。

＜本時のめあて＞
身の回りのごみ処理の取り組みについて調査したことを基に、ごみを減らすために大切なことを考えよう。

【追究する】

各グループで、家庭学習で調査してきた「身の回りのごみ処理の取り組み」について、整理・分類する。

整理・分類したことを基に、学級全体で共通点や関連することを話し合い、ごみを減らすために大切なことを考える。

【まとめる】

ごみを減らすために大切なことをまとめるとともに、学習の振り返りをする。

単元の学習計画	
つかむ	ごみの処理について、単元の課題を立てる。
追究する	ごみ処理の仕方等を調べる。（施設見学含） ・燃えるごみ ・燃やした後 ・資源ごみ ・ごみ処理の問題
まとめる ・生かす	・身近なごみ処理の取り組みを基に、大切なことを話し合う。（本時） ・自分たちにできることを考え、話し合う。

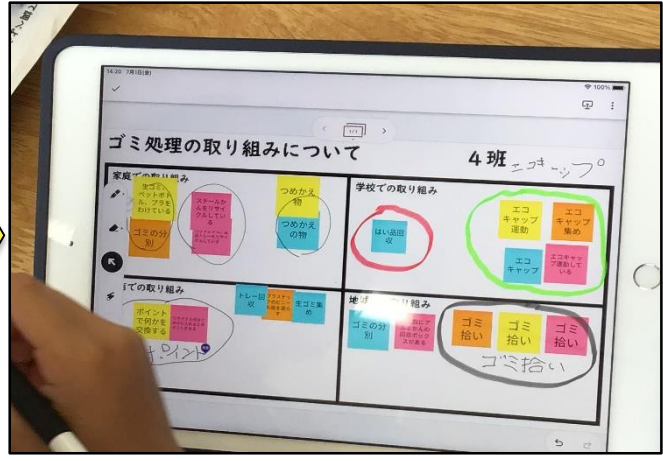
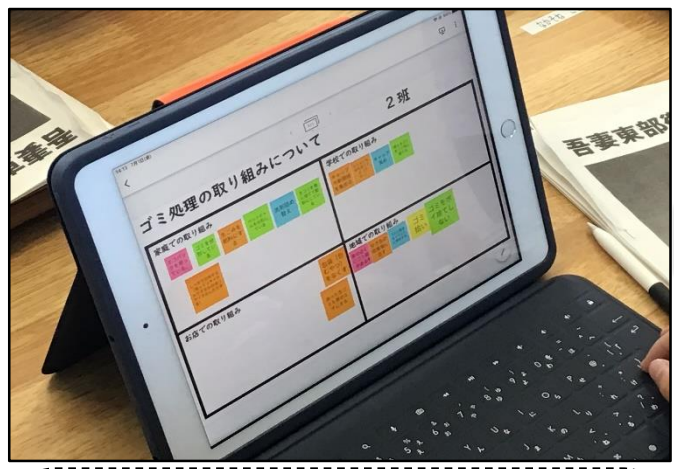
【事例におけるICT活用の中心場面】

- 家庭学習において調査した身の回りのごみ処理の取り組みについて、**ホワイトボード機能を用いて「家庭」「学校」「お店」「地域（地区）」の視点で、整理・分類**する。

- 児童一人一人が本時の「振り返り」をし、その内容を**学習支援ソフト**を用いて、教師に送信する。 → **全員で共有**

【社会科・小4 ごみのゆくえ（人々の健康な生活を支える事業）】②

【事例におけるICT活用の中心場面】

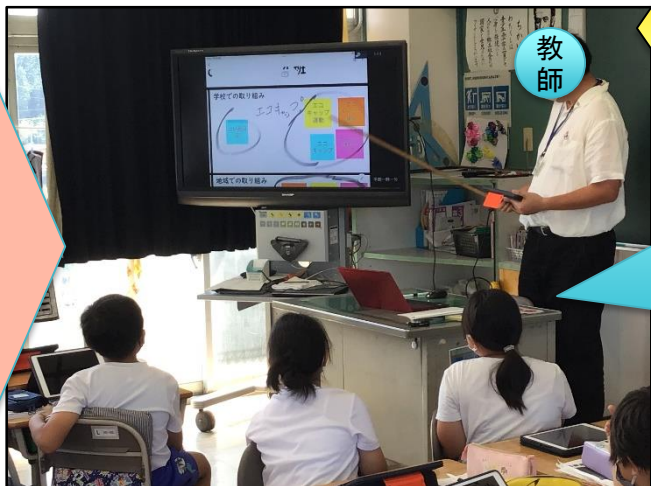


○一人一人が家庭学習において調査してきた身の回りのごみ処理の取り組みについて、**個々の端末上のホワイトボードに並べる。**
 →個々が付箋の色を決めて使用していたため、誰が調べたものか判断できるとともに、個々の調査内容を大切にすることができた。

○**共同編集機能**を使用し、ごみ処理の取り組みを、「家庭」「学校」「お店」「地域（地区）」の視点で**整理**する。
 →個々が操作している内容がグループ全員が同時に画面上で確認しながら整理する作業を進めることができた。

○**共同編集**した結果、整理した内容ごとに、「回収」「分別」「リサイクル」などのように取り組みの種類で**分類**（ラベリング）をした。
 →分類したことで「家庭」「学校」「お店」「地域（地区）」と**違う場所で行われている同じ取り組みの共通点や関連性を見出しやすくなった。**

学級全体で、ごみ処理の取り組みについて整理・分類したことを基に、それぞれの場所で行われている取り組みから共通することや関連すること、大切と考えることを話し合う。



・身の回りで行われているごみ処理の取り組みは同じことや違うこともあるけれど、「**ごみを減らし、きれいな生活環境を守るためには、住民としての責任をもち、協力して、ごみ処理をしていくことが大切**」ということが見えてきたな。
 ・自分たちも住民の一人ということを忘れてはいけないな。

【活用したソフトや機能】
 ・学習支援ソフト ・ホワイトボード機能 ・文章作成ソフト